

国語 第2学年 どんな おはなしかを たしかめて、音読しよう

授業の設計図

元にした物：小学校学習指導要領（平成29年告示）の原文と、国立教育政策研究所の学習評価の参考資料。教科書の本文・問題・挿絵は入れていません（先生が入れる欄）。光村図書の令和6年度版年間指導計画に基づく1学期の授業案。教材本文・台詞・挿絵・問題文は転載していない。

この単元で子どもが最後にできるようになること

登場するものの行動と場面の様子を確かめ、音読に表す。学習の記録は、場面の行動と音読の理由を結ぶメモである。

学習指導要領のどこに書いてあるか（原文）

学習指導要領の項目	原文
〔第1学年及び第2学年〕〔知識及び技能〕(1)オ	オ 身近なことを表す語句の量を増し、話や文章の中で使うとともに、言葉には意味による語句のまとまりがあることに気付き、語彙を豊かにすること。
〔第1学年及び第2学年〕C読むこと(1)イ	イ 場面の様子や登場人物の行動など、内容の大体を捉えること。
〔第1学年及び第2学年〕〔知識及び技能〕(1)ク	ク 語のまとまりや言葉の響きなどに気を付けて音読すること。

単元の目標

身近なことを表す語句の量を増し、話や文章の中で使うとともに、言葉には意味による語句のまとまりがあることに気づき、語彙を豊かにすることができる。（〔知識及び技能〕(1)オ）

場面の様子や登場人物の行動など、内容の大体を捉えることができる。（C(1)イ）

登場するものの行動と場面の様子を確かめ、音読に表す学習の中で、言葉への関心をもち、自分の取り組みを見直そうとする。

評価規準（3観点）

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
①身近なことを表す語句の量を増し、話や文章の中で使うとともに、言葉には意味による語句のまとまりがあることに気付き、語彙を豊かにしている。（〔知識及び技能〕(1)オ）	①「読むこと」において、場面の様子や登場人物の行動など、内容の大体を捉えている。（C(1)イ）	①登場するものの行動と場面の様子を確かめ、音読に表す学習に進んで取り組み、友達の反応や自分の記録を確かめながら、言葉の使い方や捉え方を見直そうとしている。

単元の流れ

光村図書の年間指導計画による全9時間（読9）。総時数は公式資料に従う。各時の配分と本時の選定は、本案による授業配当の提案である。

次	時	学習活動	評価規準（評価方法）
第1次	1	○教材と学習に使う言葉を確認、問いについて今の考えを話す。単元の終わりに残す記録を確認、学習の見通しをもつ。	学習状況を見て支援する。

次	時	学習活動	評価規準（評価方法）
第2次	2～4	○人物や自然物の言動を本文から確かめ、相手との関わりを短いメモにする。必要な語や材料を集め、関係を整理する。	知①（言葉・文字・資料の扱いを確かめる活動）
第3次	5～8 （本時）	○人物や自然物の言動を本文から確かめ、相手との関わりを短いメモにする。同じ箇所を間や声の強さを変えて読み、どの読み方が行動の様子に合うかを比べる。	思①（発言・活動中の記録・作成物）
第4次	9	○選んだ言葉と、そこから考えたことの関係を自分の言葉で説明する。異なる考えは根拠を確かめて聞く。学習で確かめたことを別の文章や場面でどう使うかを話す。	態①（学習前後の記録と見直しの理由）



本時の案

本時の目標：場面の様子や登場人物の行動など、内容の大体を捉えることができる。(C(1)イ)

段階	学習活動（○主な発問） ・予想される児童の反応	指導上の留意点（◎評価）
導入 (分)	教材と学習に使う言葉を確認め、問いについて今の考えを話す。 ○「この場面では、それぞれが何をしようとしていますか」 【めあて】登場するものの行動と場面の様子を確認め、音読に表す。 〈予想される児童の反応〉 ・前の言葉を聞いて次の動きが起こる。	最初の言い方や記録を残し、授業後の考えと比べられるようにする。正答を先に示さず、扱う言葉と課題を確認する。
展開 (分)	○「この場面では、それぞれが何をしようとしていますか」 人物や自然物の言動を本文から確認め、相手との関わりを短いメモにする。同じ箇所を間や声の強さを変えて読み、どの読み方が行動の样に合うかを比べる。 選んだ言葉と、そこから考えたことの関係を自分の言葉で説明する。異なる考えは根拠を確認めて聞く。 〈予想される児童の反応〉 ・前の言葉を聞いて次の動きが起こる。 ・同じ大きな声にする必要はない。	本文の行動を表す語を示し、だれの言葉かを確認める。自然の仕組みの正誤より物語の場面で何が起きているかを扱う。想定する難しさ：擬人化された自然物を知識だけで説明し、物語の言動を見ない。 評価では、場面の様子や登場人物の行動など、内容の大体を捉えているかを、場面の行動と音読の理由を結ぶメモと活動中の発言・操作から確認める。作品の量や見た目、発言の回数だけで判断しない。 ◎思① 場面の様子や登場人物の行動など、内容の大体を捉えている。(発言・活動中の記録・作成物)
まとめ (分)	【まとめ】問いへの答えを、今日確認めた言葉や表現を含めて話す。 場面の行動と音読の理由を結ぶメモを見返し、初めと変わった点や、そのまま残した理由を確認める。 〈予想される児童の反応〉 ・同じ大きな声にする必要はない。	教師のまとめを写すだけにせず、本人が選んだ言葉と理由を確認める。態度は本時だけで決めず、単元を通した取り組みと調整の記録を合わせて判断する。 ◎態①（最初と最後の記録、見直しの理由）

板書の構造（縦書き・右から左へ）

縦書きで、右から左へ学習の流れを配置する。右端に題名とめあて、その左に問い「この場面では、それぞれが何をしようとしていますか」。中央は、場面の行動と音読の理由を結ぶメモに必要な言葉・材料と、考えた理由を対応させる。本文を扱う場合は先生が手元の教科書から必要な範囲を示す。左側に比べて気付いた点と見直した箇所、左端に本時で確認めたことを置く。

つまづきやすい所と手当て

擬人化された自然物を知識だけで説明し、物語の言動を見ない。この難しさには、本文の行動を表す語を示し、だれの言葉かを確認める。自然の仕組みの正誤より物語の場面で何が起きているかを扱う。評価では、場面の様子や登場人物の行動など、内容の大体を捉えているかを、場面の行動と音読の理由を結ぶメモと活動中の発言・操作から確かめる。作品の量や見た目、発言の回数だけで判断しない。

プリントの案

本時の記録

場面の行動と音読の理由を結ぶメモを残す欄を用意する。教材本文や図を複製せず、自分の言葉や印で記録する。

比べて確かめたこと

最初の考えや表現、友達からの反応、確かめた言葉、最後に選んだ考えや表現を対応させる。書く負担が大きい場合は口述や指差しも教師が記録する。

出典：光村図書 令和6年度版 年間指導計画。教材名・時期・総時数・目標の出典。年間指導計画例 Excel（2年）「2年上巻」14行目（https://www.mitsumura-tosho.co.jp/download_file/view/1916261d-d388-44ac-af42-3aa7e13b6b11/368）
／文部科学省 小学校学習指導要領（平成29年告示）。保存した公式原文と学年段階・項目を照合。

（https://www.mext.go.jp/a_menu/shotou/new-cs/1384661.htm）／国立教育政策研究所「指導と評価の一体化」のための学習評価に関する参考資料 小学校 国語。評価の観点と記録の考え方。

（https://www.nier.go.jp/kaihatsu/pdf/hyouka/r020326_pri_kokugo.pdf）

AIが作成した授業案です。授業での検証は未実施です。自校の教材・年間計画・学級の実態に合わせて確認してください。



Threads「三重でAI使うなら」(@mie_ai_katsuyo)
https://www.threads.com/@mie_ai_katsuyo

LINEオープンチャット
みえ先生ラボ



AI三重